



知るぶふれは「高粱を知る」と「シルブプレ」(フランス語で「よろしければ」)をかけた言葉です

酷暑下のテニスの試合のクレイコート、トスカナの孤立した屋根、巨大な岩のウルルなどという情景を頭に浮かべさせる吹屋の深く赤いベンガラに心が奪われました。鉾山開発の繁栄を聞いたことがあるのですが、陶芸とベンガラの関係がよく分からなかったのです。今回は陶芸家の田邊典子さんにお話を伺いました。成羽町出身で、京都の美術大学を卒業後、陶芸家3代目として30年前から吹屋の魅力を伝える活動をしています。その1つに、吹屋ふるさと村陶芸館で、観光客にベンガラ顔料を使って焼き物に絵を描くことを教えたり、陶芸体験ワークショップを実施しています。

特に誇りに思うのは、陶芸館横の「登り窯」。これは平成2年に建てられたもので、電子釜にくらべて多種な焼き物ができるそうです。この「登り窯」は、吹屋で屋根瓦(塩田瓦)を作っていた職人の例に倣って、地元の技術を伝えるため、また陶芸の可能性を探りたい人を満足させるために建てられました。また、宇治高校の美術の非常勤講師として、生徒に美術を教えることも吹屋の魅力も伝えていきます。ぜひ、吹屋ふるさと村陶芸館へ足を運んでください！



人生で初めての陶芸にチャレンジ!



陶芸家の田邊典子さん。優しく丁寧に教えてくれました。



人生の最期の選択について

院長 紙谷 晋吾

去る2月25日に、第8回県民公開医療シンポジウム「人生の最期の選択と命の洗濯」が岡山県医師会館で行われました。前岡山県福祉部長で現厚生労働省医政局地域医療対策室長の伯野氏の特別講演に続いて、病院協会会長、県医師会副会長など多くの講師が自らの人生最期の選択についてユーモアを交えて披露し、とても有意義なシンポジウムでした。そして最後は全員でキロロの「未来へ」など3曲を合唱して閉幕しました。元気に活躍できる健康寿命と平均寿命の差は男性で9年、女性で11年といわれています。3月の広報たかはしにはその差を縮めるヒントとなる、この4月から始まる介護予防・日常生活支援総合事業についての記事が掲載されています。市が中心となるこの制度と病院通信の検診の勧めをしっかりと利用して、健康寿命を伸ばすことができればと期待しています。

ところで「最期に食べたいものは何ですか?」「最期に何を伝えたいですか?」「最期はどこで迎えたいですか?」などの質問にどう答えますか。一度じっくり考えて、そして家族で話し合う機会を持つてたらいいと思います。今、病院では「治す医療と癒やす医療」を考えながら治療を選択することが多くなっています。自分の選択を十分家族・医療者と話し合っ、納得して、満足して人生の最期を迎えられるように準備する時代が始まっています。



学園だより

入学宣誓式を挙行了しました

4月3日(月)、吉備国際大学及び順正高等看護福祉専門学校の合同入学宣誓式を行い、新入生539人が期待を胸に本学での新生活をスタートしました。

桜が満開に咲き誇る中、これから始まる新生活に不安と期待の入り交ざる新入生を前に、眞山滋志学長と村上重子・順正高等看護福祉専門学校長から、新入生の入学が許可されました。

眞山学長は、「皆さんの未来を確かにする自己変革に気力いっぱい挑戦され、価値ある学生生活を送られることを祈念いたします」と式辞を述べ、村上校長は「皆さんには、共通の夢である看護師、介護福祉士の資格を得ること、社会の一員としての役割を果たすことのできる自律した人となるという目的があります。私たち教職員は全能力を傾けて、皆さんの夢実現をお手伝いしたい」と激励しました。また、加計美也子・順正学園理事長は「本学における学生生活を、あるいは、二度とない青春の季節を、悔いのないよう、健康に留意して過ごされ、素晴らしいキャンパスライフになりますことを祈念します」とお祝いの言葉を贈りました。そして、新入生代表が「入学の上は、学則を守り勉学に励み、人格の向上に努めます」と宣誓しました。

本年度も、こうして無事に新入生を迎えることができ、教職員一同、市民の皆様へ心より感謝申し上げます。学生たちも高粱での新生活に、当初は不慣れな点多いかと思いますが、どうか温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。



順正学園入試広報室 (25) 9944

キラキラきらめく ⑪

島崎 裕司さん

しまざき ゆうし 26歳 落合町阿部

日本料理店で働く裕司さんは、板前修業をした前の職場の先輩(現在の職場の店主)に誘われて、岡山市から高粱市に移住してきました。

小学校低学年時の作文に「将来は料理人になりたい」と書いた、根っからの料理好き。趣味の釣りでも「食べられる魚」を狙います。

もう一つの趣味は、ギター演奏やカラオケを楽しむこと。「高粱は自然がいっぱいで好き」という反面、「遊ぶところが少ないのが残念」と若者らしい意見も。とはいえ、「今は仕事のこと、料理が上手くなることで頭がいっぱいです」と話します。

「良い板前であるには、良い人間であることが大事。お客さんだけでなく、まわりの人たちと仲良くしていきたい」と真剣な表情で語り、やさしく目を細めていました。